

## 会 議 録 (概要)

会議名称	平成27年度 伊那市特別職報酬等審議会第1回審議会
日 時	平成27年11月27日(金) 午前11時00分から午後12時05分まで
場 所	伊那市役所 庁議室
出席者	<p>【委員】 川上健夫、高嶋厚、北原一博、北原文明、原博文、滝澤雄二、飯島信子、春日幸子</p> <p>【理事者】 白鳥市長(諮問時)</p> <p>【事務局】 原総務部長、馬場総務課長、田原係長、川崎主任</p>
欠席者	【委員】 黒河内貴、山崎恭子
議 題	<p>委嘱、会長選出、諮問</p> <p>(1) 会長職務代理の指名について</p> <p>(2) 会議録署名委員について</p> <p>(3) 特別職の報酬等について</p> <p>(4) 今後の日程について</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊那市特別職報酬等審議会条例、伊那市特別職報酬等審議会規程</li> <li>・伊那市特別職等報酬審議会資料</li> </ul> <p>(特別職の報酬等改定経過、特別職の報酬等の状況、県内19市の財政状況等、県内19市の市長等の給料月額状況、県内19市の議員月額状況、類似団体の財政状況等、類似団体の市長等の給料月額状況、類似団体の議員の報酬月額状況)</p>
議 事 内 容 (要 旨)	
<p><b>1 開 会</b></p> <p><b>2 市長あいさつ</b></p> <p><b>3 委嘱</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員に対し、市長から委嘱書を交付</li> <li>・欠席者の報告</li> <li>・自己紹介</li> </ul> <p><b>4 審議会について</b> 事務局から、審議会の目的等について説明</p> <p><b>5 会長選出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣例により伊那商工会議所の会頭の川上委員を選出</li> <li>・会長あいさつ</li> </ul> <p><b>6 諮問</b> 市長から審議会に対し諮問。会長に諮問書を手渡す。</p> <p><b>7 審議事項 (進行 会長)</b></p> <p><b>(1) 会長職務代理者の指名について</b></p> <p>審議会条例第4条第3項の規定により、会長が指定する。</p> <p>会長職務代理者 長野県経営者協会上伊那支部 高嶋厚委員</p>	

## (2) 会議録署名委員について

審議会規程第11条第2項により、議長が会議に諮ってこれを定める。

会議録署名委員 北原文明委員 飯島信子委員

## (3) 特別職の報酬等について

### ○市長・副市長・教育長の給料について

(委員) それぞれの給料月額は、構成根拠があり額を決めているのか。または各市町村や類似市との比較により決めているのか。現行の給料の構成根拠があれば、教えていただきたい。また、市長、副市長等の給料額の差に基準があるのか。

(事務局) 合併協議時の報酬額は、県内19市における伊那市の人口規模が、安曇野市と塩尻市の中間だということを判断基準にしている。他の自治体でも、人口規模や財政規模を判断基準とすることが市民や議会の理解を得やすいと考えているようだ。審議会として一定の判断基準を設けることは必要と考える。

(委員) 安曇野市と塩尻市の財政と人口を基準に決めたということだが、現在同額であり、適当な額だ。うちの新入職員は額が多いと驚いていたが、必要な額だと思う。

(委員) 事前資料を見て、人口規模が一番の基準になると感じている。

(委員) 塩尻市は平成24年に改定しているが、伊那も古くはないので、適正な順位付け、額ではないかと思う。

(委員) 事前資料を見て、額は長い経過を経て決められたのだろうと思った。市職員の賃金水準が低いこととの整合性がとれるのかどうかも含めて考えた方がよいのではないか。

(委員) 資料を見ると、人口とか経済状況とか雇用情勢とか、意見は合致していると思う。諏訪市長と話す機会があり、大変か聞いたところ、今のところそれほどでもないが、自分のできる範囲でやるという話だった。妥当だと思う。

(会長) 据置きでいいという意見が大半だった。その方向で検討したいがよろしいでしょうか。  
(一同異議なし)

(事務局) 審議結果を報告し、必要な条例改正を行う際、審議会における判断過程が求められる。財政規模、人口規模を判断基準として、最終的な判断をお願いすることになる。本日のところは、市長、副市長、教育長の給料月額については適当な水準だという判断でよいか確認したい。

(会長) それでよいと思うが、よろしいか。  
(一同異議なし)

### ○市議会議員の報酬について

(委員) 長い経過の中で、洗練された数字になっている。報酬額の増減や、金額を出すのも難しい。概念的だが、いい数字だと受け取っている。

(会長) 議長、副議長、議員の報酬の県内19市の平均と伊那市との比較が、マイナスとなっているのが気になる。

(委員) 議員の賃金水準は低い。若い人の場合、任期も長期間とも限らないし、この所得で果

たしていいのかと思う。ちょっと低いと思う。

(委員) 同意見だ。立候補者が少ないことにも関連しているとも思う。

(会長) 4月の駒ヶ根の市議選も無投票だった。少額だから魅力がないということではないと思うが、しっかりやっていただくには、相応の金額も必要ではないかと思う。

(委員) そのような考えで伊那市よりも人口規模が下位の塩尻や岡谷が高く設定しているのではないか。佐久や安曇野が伊那市よりやや低めに設定していることを考えると適正だと思うが、立候補者が少ないという政治的な面からみると改定という考え方もある。塩尻、安曇野を参考にするという趣旨からすれば、適正にまとめてきたという感じがある。

(委員) 初めて金額を見て正直少し驚いている。市長、副市長等については規模で順位が決まっていると思う。議員にはいろいろな場面でお世話になり、仕事も見ている。下手をすれば24時間活動していることもあり、この金額は少ないという印象だ。

(委員) この数字でまあまあ妥当だ。

(会長) 大半の意見は、現状、若しくは若干増額という意見だ。答申では金額まで決めたほうがいいのか。

(事務局) 県下でも無投票選挙となる自治体がかかり増えている。現在の報酬が生業として成り立たない水準なのか、職務に魅力がないのか様々な要素があると思われる。伊那市議会はかなり活発な活動となっている。行政視察も頻繁に行われており、市民との懇談の機会もかなり活発である。次回、増額した場合のシミュレーション資料を示させていただきたい。改定の方向と、その幅の見解を示していただければ、資料を作成しやすい。

(会長) 今までの意見では、減額という意見は無かった。それだけ活動していれば、現状維持か、若干増額という方針だ。目安として、若干増額するとしたらどれくらいが適正なのか審議いただきたい。

(委員) 駒ヶ根市と塩尻市は政務調査費が0円だが、どういう経過なのか。

(事務局) 駒ヶ根市の経過は把握していない。塩尻市は議員の定数と政務調査費を報酬額とあわせて検討したという経過があり、結果、政務調査費を廃止して報酬を引き上げた。

(委員) 判断材料として、佐久市と安曇野市の今後の増額予定の情報確認を求める。伊那市が据置きとしても、2市が増額してアンバランスになるのもどうかと思う。

(事務局) 佐久市、安曇野市とも現在の額は平成17年に適用したもの。佐久市は平成20年に審議会を開催しているが、額は据え置いている。安曇野市は、前回改定以降審議会は開催していない状況だ。

(会長) シミュレートした資料があると議論をしやすい。若干幅を持たせてシミュレートした資料により議論いただければ、明確な姿が見えてくると思う。

(事務局) 安曇野と佐久については今後見直す予定があるとしたら参考になる。情報を確認し、次回報告する。

(委員) 他の自治体の議員の年齢構成の資料を分かる範囲で。

(会長) 再度確認するが、市長、副市長、教育長については据え置きでよろしいか。

(一同異議なし)

議員については、シミュレートと先ほどの情報を次回までにお願ひしたい。

(事務局) 議員報酬については据え置き、若しくは若干の引き上げの方向だと確認させていただく。シミュレート資料は、例えば 5,000 円、10,000 円増額した場合に何位になるかという資料でよいか。

(会長) 増額した場合の順位が分かる資料を。

(事務局) いくつかのパターンで資料を用意する。安曇野と佐久の状況について確認する。

#### **(4) 今後の日程について**

今回は、12月4日 金曜日 午後2時からとする。

答申を予定する。

**(5) その他** 特になし

**8 閉 会** (会長)